

企業等による地方創生 S D G s 調査研究会（第 10 回）の開催結果について （概要）

○日時：令和 8 年 8 月 28 日 10:00~12:00

○場所：ハイブリッド（内閣府・オンライン）

○出席委員：竹ヶ原座長、岩本委員、大塩委員、川原委員、関委員、藺田委員、月田委員、長谷川委員、堀田委員、宮垣委員、横山委員

○議事総括：

①企業等による地方創生 SDGs 取組事例ヒアリング

- ・ 各団体より、取組事例についての説明があった
- ・ 委員からの質問や意見は次のとおり

五島市民電力による再エネ地産地消と地域循環（長崎県五島市）

- 島外企業が五島市民電力の電力を購入する理由や、今後の需要拡大の可能性についてはどうお考えか。
- 洋上風力発電の受入れと市民電力設立の検討は、どのような経緯で進められたかお伺いしたい。
- 出資者の将来的な利益還元の考え方についてお伺いしたい。
- 五島市において地域新電力事業が持続的に成功していることは大変素晴らしいが、その要因は何にあるとお考えか。
- 黒字経営を維持できている最大の要因についてお伺いしたい。
- 今後、発電設備や販売エリアの拡大予定や、貴市の成功事例の他地域への横展開などのお考えがあればお聞かせいただきたい。
- 多数の出資者がおり、株主間で利害が一致しない可能性もある中で、どのようにガバナンスや意思決定を行っておられるのか、お差し支えがなければお伺いしたい。

「鶴岡 BISTRO 下水道」を核とした食・農・エネルギーの地域循環（山形県鶴岡市）

- 今後、周辺・遠隔地域との連携やノウハウの横展開などについてお考えがあればお聞かせいただきたい。
- 山形大学が取組の中心になった経緯・地域性についてお伺いしたい。
- 約 40 年前に下水道整備を開始した時点で既に循環利用・コンポスト活用を進められているが、この辺りの経緯についてお差し支えがなければお伺いしたい。
- 取組の推進主体は鶴岡市であるが、どのように各主体との連携・座組の形成を行われ

たのか。

- 長期間にわたるお取組で担当者の入れ替わりがある中で、どのように取組・連携体制を維持されているのか。
- 国の取組である「BISTRO 下水道」に参画したきっかけ・庁内での意思決定についてお伺いしたい。

民間主導の「RENEW」を核とした産業観光と持続可能な産地づくり(福井県鯖江市)

- 若者に伝統産業の魅力を伝えたり、職人や工房の協力を得たりするために、どのような工夫をしておられるかお伺いしたい。
- 関連するが、地域・地元の学生や学校等を巻き込む取組・工夫はどのように行われているかお伺いしたい。
- 2017 年のイベントにおいて来場者数が大幅に増加（約 20 倍）した際、どのような広報活動や集客戦略を採られたか、お差し支えがなければお伺いしたい。
- 特に若者の移住を引き付けている理由は何にあるとお考えか。
- 今後、インバウンド戦略や海外との連携についてご検討・ご予定があればお伺いしたい。
- 地元銀行と、事業承継やアウトバウンドに向けた地域商社機能等の面でどのような連携が行われているか、お差し支えがなければお伺いしたい。
- 若い移住者（クリエイター・デザイナー）と職人・工房との間で、将来的な事業承継に向けた意思疎通やコンセンサスはどのように取られているのか。